



# 吸血鬼の花嫁

ヴァンプドールのはなよめ

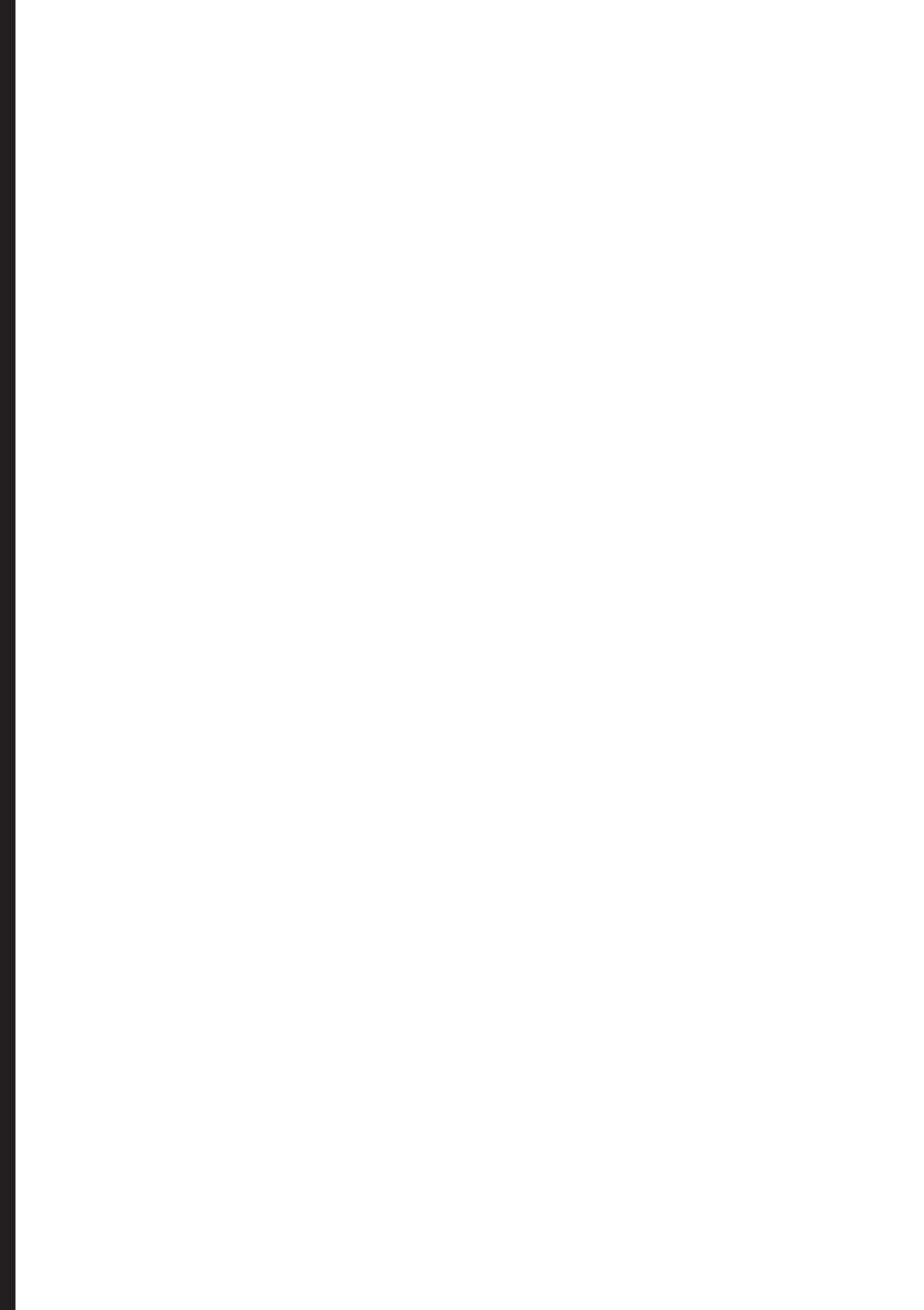
*A bride who gets married to vampire*

# DRAMA CD

Saku Takano Presents  
*A bride who gets married to vampire*

〈ドラマCD アフレコ台本〉

【非売品】



*A bride who gets married to vampire*

吸血餽  
—ヴァンプドール—

吸血鬼の花嫁  
—ヴァンプドールのはなよめ—  
*A bride who gets married to vampire*

DRAMA CD

Saku Takano Presents  
*A bride who gets married to vampire*

〈ドラマCDアフレコ台本〉

非売品

本書は、ドラマCD「吸血鬼の花嫁—ヴァンパイアードールのはなよめ—」の  
縮刷台本となります。

原作・脚本　嵩乃朔  
音響監督　児玉拓己  
音楽　羽鳥風画  
制作　株式会社ボイス・ビューア

# 吸血鬼の花嫁 —ヴァンプドールのはなよめ—

A bride who gets married to vampire

## DRAMA CD

Saku Takano Presents  
A bride who gets married to vampire

〈ドラマCDアフレコ台本〉

■吸血鬼の花嫁—ヴァンプドールのはなよめ— ボイスドラマ

### 【登場人物】

篠崎蒼緒…相坂優歌さま

17歳。軍人。衣路の「花嫁」。

明るく笑顔が絶えない。衣路に恋心を抱くが伝えられず、自分より衣路を優先してしまい、つい尽くしてしまう。

二ノ宮衣路…湯浅かえでさま

16歳。軍人。ヴァンプドール。

・戦闘能力が高く、軍人として非常に優秀だが、吸血鬼なのに吸血が苦手。そのためお腹を空かせがち。生真面目でにぶい。蒼緒の恋心には気づいていない。でも蒼緒のことは親友として花嫁として大事にしたいと思っている。

花總雪音…田辺留依さま

19歳。軍人。ヴァンプドール。紗凧の恋人。

・元お嬢様。自信家で世間知らずなどころがあるものの、衣路と並んで戦闘能力は高い。天才肌だがそれ以上に努力家である。有言実行タイプ。基本、品の良いお姉さまタイプだが、好きな子ほどついいじめてしまう。紗凧にベタ惚れ。

白藤紗凧…大野柚布子さま

18歳。軍人。雪音の「花嫁」であり恋人。

・僕つ子（女の子）。内気で他人が苦手で、どもりがち。でも親しい間柄では自分が出せる。いざという時は、意外と肝が座っているが普段は流されがち。唯一雪音を御すことができる。

## 【世界観および主な用語】

・「吸血鬼×軍服×百合」をコンセプトにした吸血鬼百合作品。

・時代

.. 明治後期～昭和初期あたりの和洋折衷な雰囲気の架空の世界。

・ヴァンプドール・吸血餓。いわゆる吸血鬼。ウェアウルフと呼ばれる化物を

退治する軍人。「花荘」と呼ばれる、吸血のためのパートナーがい

る。

・ウェアウルフ・狼餓。いわゆる狼男。象くらいの大きさの狼の化け物。

・はなよめ・花荘。脚本中では読みやすさ優先のため「花嫁」の字にしていま

す。ヴァンプドールが吸血するための少女。パートナー。ヴァンプ

ドールと花嫁で恋人として付き合っていたり、付き合っていない場合もあつたり。

### 【あらすじ】

・仕方なしに、衣路は同じくヴァンプドールの雪音に再度相談。痛がらせないためには、気持ちよくしてあげてから吸血すればいいと

アドバイスを受けるも、純情な衣路にはハードルが高い。なおか

つ、雪音とその花嫁の紗凧は恋人関係にあるが、衣路と蒼緒は親友同士。親友への真摯な思いと、胸に去来する名言化できぬ思いに、

戸惑う衣路。

・一方の蒼緒は、雪音の花嫁である紗凧に相談を持ちかける。雪音と紗凧は恋人同士であるが、蒼緒は衣路に淡い恋心を抱くものの、

衣路にどつては親友でしかないことを理解しているため、自分の気持ちを押し殺して思い悩む。とにかくお腹を空かせている衣路のため、どうにか吸血する方法はないかとアドバイスを乞う。

・お互いの相談の結果、キスしてから吸血することに。蒼緒は、衣路が望まないならキスしたくないと言うが、衣路は蒼緒に痛い思いをさせなくて済むのなら、したいと言う。キスをして吸血をする二人。

・翌日、衣路は蒼緒に「ヴァンプドールと花嫁は、命を預けあって、命を与えるからこそ、ふたりだけの特別な絆がある。そういう絆を築きたい。だからこれからも花嫁でいてほしい」と告げる。嬉しく思つ蒼緒。けれど衣路の言う特別と自分の思う特別とは違うのだと、理解していた。

も吸血に失敗してしまい、もう三日も吸血しておらず、はらべこのせいで退治すべきウェアウルフの反撃を受けてしまつた。

・助けに入った同僚の雪音のおかげで事なきを得たが、雪音に「恥ずかしがらずに今すぐに吸血しなさい」と説教されたものの、すつたもんだしつつもやはり恥ずかしくて吸血できずじまい。

1		●吸血鬼の花嫁—ヴァンパイアーナイト
2		木に背中を打ち付ける衣路。
3	■第一話	迫りくる狼餓。
4		「ぐへー（痛みに耐えながら）」
5		「あー（油断大敵よ）」
6	■木立の立ち並ぶ林。（夜）	その時、左後方から援護が。
7	狼餓	「おおえは…」
8		「あー（跳躍）」
9		バキバキメキメキ木を齧ぎ払いながら迫つて来る。
10		「（冷静に）ふふ、図体ばかりでかじ雑魚が」
11	衣路	「（狼餓の唸り声。狼が曰大化したような化け物）
12		「あー（油断大敵よ）」
13	衣路	衣路、銃を構へて、ミッドミッド5.56mm弾のオート射撃。（ササルトライフル）全弾ヒラム。
14		「（狼餓の悲鳴。足止めを食らう）
15		グギヤーー（狼餓の悲鳴。足止めを食らう）
16	狼餓	「先輩… 援護します…」（今度は右後方から）
17		紗風
18	衣路	紗風にモル9mm弾のオート射撃。（サブマシンガン）
19		「ム・ム・メ・だあーー」
20		走り寄りながら、上段に構えた日本刀を抜き、振り下ろす衣路。
21		が、キンと爪で弾かれる。
22		狼餓
23	衣路	ギヤアアア…
24		SE 日本刀を構える音。
25	狼餓	瀕死の狼餓。
26		SE 日本刀を構える音。
27		雪音
28		「…」二人は嫌われるわよ。わいわいお逝きなさい… はおお
29	衣路	あー…（ムーム）
30		雪音の一閃で狼餓、斬られる。メキメキと木が倒れる音ひくむし、ズシソと化け物が倒れる（カバとか大きな獸が倒れるくぬこの大きい化け物が蒸発）。
31		木に背中を打ち付ける衣路。
32		迫りくる狼餓。
33	衣路	「ぐへー（痛みに耐えながら）」
34		「あー（油断大敵よ）」
35		「おおえは…」
36		その時、左後方から援護が。
37		「（狼餓の唸り声。狼が曰大化したような化け物）
38	雪音	「あー（油断大敵よ）」
39	衣路	「おおえは…」
40		「（狼餓の唸り声。狼が曰大化したような化け物）
41		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
42		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
43	狼餓	「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
44		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
45	紗風	「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
46		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
47		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
48		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
49	狼餓	「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
50		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
51		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
52		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
53		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
54	雪音	「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
55		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）
56		「（狼餓の唸り声。素早く日本刀で攻撃）

61	雪音	「やつ」
62	雪音	「ふるのよ。仲間同士助け合わなきや。…それにしてお衣路がウエアルフを仕留めそこなうなんて珍しいわね。ま、この件は貸しにしておくからいいけど」
63	SE 納刀の金属音。	「アーヴルフを仕留めそこなうなんて珍しいわね。ま、この件は貸しにしておくからいいけど」
64	衣路	「アーヴルフを仕留めそこなうなんて珍しいわね。ま、この件は貸しにしておくからいいけど」
65	衣路	「アーヴルフを仕留めそこなうなんて珍しいわね。ま、この件は貸しにしておくからいいけど」
66	衣路	「雪音…。すまん。助かった」
67	衣路	「雪音…。すまん。助け合ったんだよ」
68	雪音	「雪音、いわゆる近づきなんか」
69	雪音	「雪音、いわゆる近づきなんか」
70	雪音	「サルも木から落ちる…、衣路ともあらう人がウエアルフに反撃されるなんて、ね」（衣路の手を取つてひつぱりあげる）
71	衣路	「つ、ありがとう、雪音。…って、人をサル呼ばわりするなよ」
72	衣路	「あい、我が帝国陸軍特務機攻部隊・ストレイ・ダッグ・カーネイジのエース・「ノーブル衣路」でも珍しい事もあるものねと驚いて、さうのよ。…ああ、眞のエースはこの私、花縄雪音だけれど」
73	雪音	「あい、我が帝国陸軍特務機攻部隊・ストレイ・ダッグ・カーネイジのエース・「ノーブル衣路」でも珍しい事もあるものねと驚いて、さうのよ。…ああ、眞のエースはこの私、花縄雪音だけれど」
74	衣路	「ほひほひ」
75	衣路	「ほひほひ」
76	衣路	「ほひほひ」
77	ガサガサと腰高くいの草の葉ずれの音。	「ほひほひ」
78	79	「ほひほひ」
80	蒼緒	「衣路ちゃん、大丈夫だつ…、つて、あれ、雪音さん？」
81	紗凪	「お疲れ様、衣路ちゃん、蒼緒ちゃん、それから先輩も」
82	蒼緒	「つて、紗凪ちゃん!」
83	紗凪	「えぐく。こんにちは…て、いうかもう夜だから、こんばんは、だね、蒼緒ちゃん」
84	蒼緒	「（嬉しそうに）うわあ…、こんばんはだよお～…、こんな所でどうしたのね？」
85	蒼緒	「（嬉しそうに）うわあ…、こんばんはだよお～…、こんな所でどうしたのね？」
86	雪音	「ふふ、帰投中、たまたま通りがかつてね、ちよつとだけ衣路に手を貸してたの」
87	雪音	「いや、雪音が助けてくれて、本当に助かった。ありがとうございます。なんたつていづれの花嫁さまは戦闘はからつきしだからな」
88	衣路	「ふふ、帰投中、たまたま通りがかつてね、ちよつとだけ衣路に手を貸してたの」
89	衣路	「いや、雪音が助けてくれて、本当に助かった。ありがとうございます。なんたつていづれの花嫁さまは戦闘はからつきしだからな」

91	蒼緒	「えぐく。面白な…」
92	雪音	「ふるのよ。仲間同士助け合わなきや。…それにしてお衣路がウエアルフを仕留めそこなうなんて珍しいわね。ま、この件は貸しにしておくからいいけど」
93	雪音	「アーヴルフを仕留めそこなうなんて珍しいわね。ま、この件は貸しにしておくからいいけど」
94	衣路	「アーヴルフを仕留めそこなうなんて珍しいわね。ま、この件は貸しにしておくからいいけど」
95	衣路	「アーヴルフを仕留めそこなうなんて珍しいわね。ま、この件は貸しにしておくからいいけど」
96	雪音	「無償労働はしない主義なの。…で、何かあつたの？ 衣路？」
97	衣路	「いや、あの…まあ…いろいろあつて、な」（バツが悪くていよいよ）
98	蒼緒	「うそ…。助け合つんじやないのかよ」
99	蒼緒	「無償労働はしない主義なの。…で、何かあつたの？ 衣路？」
100	雪音	「うそ…。助け合つんじやないのかよ」
101	蒼緒	「だ、立ち話もなんだし、ちよつと移動して話そつか」
102	紗凪	「SE やくべのわいかの鳴き声。
103	雪音	■林、少し開けた場所。（夜）
104	蒼緒	「やくべのわいかの鳴き声。
105	紗凪	「それで、一体どうしたつて、うののかしら？」
106	蒼緒	「えぐく、いのあたりでいいかな？」
107	紗凪	「だね。座れそつな切り株もある」
108	雪音	「それで、一体どうしたつて、うののかしら？」
109	衣路	「う…」
110	蒼緒	「えぐく、いの紹介が遅れましたが、この人たちは私たちの同僚さん、ヴァンプニールの花縄雪音さんと、その花嫁さんの白蘭紗凪ちゃん。衣路ちゃんもどつても強いヴァンプニールなんだけど、雪音さんもどつても強いんです。私たちより早くから特務機攻部隊いる、頼りになる先輩さんたちです」
111	蒼緒	「えぐく、いの紹介が遅れましたが、この人たちは私たちの同僚さん、ヴァンプニールの花縁雪音さんと、その花嫁さんの白蘭紗凪ちゃん。衣路ちゃんもどつても強いヴァンプニールなんだけど、雪音さんもどつても強いんです。私たちより早くから特務機攻部隊いる、頼りになる先輩さんたちです」
112	蒼緒	「えぐく、いの紹介が遅れましたが、この人たちは私たちの同僚さん、ヴァンプニールの花縁雪音さんと、その花嫁さんの白蘭紗凪ちゃん。衣路ちゃんもどつても強いヴァンプニールなんだけど、雪音さんもどつても強いんです。私たちより早くから特務機攻部隊いる、頼りになる先輩さんたちです」
113	蒼緒	「えぐく、いの紹介が遅れましたが、この人たちは私たちの同僚さん、ヴァンプニールの花縁雪音さんと、その花嫁さんの白蘭紗凪ちゃん。衣路ちゃんもどつても強いヴァンプニールなんだけど、雪音さんもどつても強いんです。私たちより早くから特務機攻部隊いる、頼りになる先輩さんたちです」
114	蒼緒	「えぐく、いの紹介が遅れましたが、この人たちは私たちの同僚さん、ヴァンプニールの花縁雪音さんと、その花嫁さんの白蘭紗凪ちゃん。衣路ちゃんもどつても強いヴァンプニールなんだけど、雪音さんもどつても強いんです。私たちより早くから特務機攻部隊いる、頼りになる先輩さんたちです」
115	蒼緒	「えぐく、いの紹介が遅れましたが、この人たちは私たちの同僚さん、ヴァンプニールの花縁雪音さんと、その花嫁さんの白蘭紗凪ちゃん。衣路ちゃんもどつても強いヴァンプニールなんだけど、雪音さんもどつても強いんです。私たちより早くから特務機攻部隊いる、頼りになる先輩さんたちです」
116	蒼緒	「おー、やいにい紹介が遅れましたが、私たちのお仕事はウエアルフを呼ばれる、人を食べちゃう異形のモノたちを退治する事で、一いつまり、対ウエアルフ部隊の軍人さんです。」
117	蒼緒	「おー、やいにい紹介が遅れましたが、私たちのお仕事はウエアルフを呼ばれる、人を食べちゃう異形のモノたちを退治する事で、一いつまり、対ウエアルフ部隊の軍人さんです。」
118	蒼緒	「おー、やいにい紹介が遅れましたが、私たちのお仕事はウエアルフを呼ばれる、人を食べちゃう異形のモノたちを退治する事で、一いつまり、対ウエアルフ部隊の軍人さんです。」
119	蒼緒	「おー、やいにい紹介が遅れましたが、私たちのお仕事はウエアルフを呼ばれる、人を食べちゃう異形のモノたちを退治する事で、一いつまり、対ウエアルフ部隊の軍人さんです。」
120	蒼緒	「私の名前は篠崎蒼緒。あっちでむすつとした、むずかしい顔をして

- 121 これが「ひみやく」宮衣路ちゃん。衣路ちゃんもヴァンプドールと呼ばれる吸血鬼さんです。
- 122 ウェアウルフはぬちやめちや強いので普通の人間では歯が立ちません。
- 123 そこで我々、帝国陸軍特務機攻部隊・通称ストレイ・ドッグ・カーネイジの登場です。私たちは通常、2人1組での行動が義務づけられています。それはヴァンプドールが人間の女の子の血を吸わなければ生きていけないからで、一人のヴァンプドールに対し、一人の女の子の子が兵糧として与えられています。「一人に対し一人といふこと」、その女の子は「花嫁」と呼ばれています。
- 124 125 126 127 128 129 130 「え…？」つまり、衣路は吸血で腹がペコペコで、敵を仕留め損なつたと…？」
- 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 「（苦笑）あははは…」「…あのは、衣路。あなたが吸血が苦手なのは知っていますけれど、大事な任務のひとつなのも…」
- 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 「（はやかしそうに）…」「もう…衣路ちゃん、全然大丈夫じゃないよ…私は…」「や…暗睡の理由は何？」「く…あ…いや…別になんでも…」
- 151 雪音 「説魔化さないの」
- 152 衣路 「…はい」
- 153 蒼緒 「…あのね。べ、別に喧嘩とかじゃないんだけど、この間吸血した時に、ちょっと傷がついたやつて。私は全然いいよ、平気だよって言つたんだけど、衣路ちゃんが遠慮しちゃつて…」
- 154 「（呆れて）…はい？」
- 155 衣路 「だ、だつて女の子の体だぞ…それを…痛い思いをさせた上に、傷までつけるなんて、私は…」
- 156 雪音 「うーん、衣路ちゃんも女の子だとと思うんだけれど…」
- 157 衣路 「私はヴァンプドールだし、傷だつてちつと治るからいいんだよ。やつきの傷だつて、もう痛くないし。でも蒼緒は普通の女の子だし」「そういうのを過保護で言つたのよ。…でもやつてえば衣路つて、蒼緒が傷つくるのをすくぐ嫌がるわよね」
- 158 衣路 「だつて普通に痛いのかやだら？」
- 159 紗凪 「痛ひつて言つても、ちょっとだけだし、傷だつてちつちやいのだよ…」
- 160 衣路 「…」
- 161 衣路 「…」
- 162 衣路 「…」
- 163 雪音 「…」
- 164 衣路 「…」
- 165 蒼緒 「…」
- 166 衣路 「…」
- 167 紗凪 「…」
- 168 蒼緒 「…」
- 169 雪音 「…」
- 170 紗凪 「…」
- 171 衣路 「…」
- 172 衣路 「…」
- 173 雪音 「…」
- 174 蒼緒 「…」
- 175 蒼緒 「…」
- 176 蒼緒 「…」
- 177 紗凪 「…」
- 178 蒼緒 「…」
- 179 紗凪 「…」
- 151 雪音 「説魔化さないの」
- 152 衣路 「…はい」
- 153 蒼緒 「…あのね。べ、別に喧嘩とかじゃないんだけど、この間吸血した時に、ちょっと傷がついたやつて。私は全然いいよ、平気だよって言つたんだけど、衣路ちゃんが遠慮しちゃつて…」
- 154 「（呆れて）…はい？」
- 155 衣路 「だ、だつて女の子の体だぞ…それを…痛い思いをさせた上に、傷までつけるなんて、私は…」
- 156 雪音 「うーん、衣路ちゃんも女の子だとと思うんだけれど…」
- 157 衣路 「私はヴァンプドールだし、傷だつてちつと治るからいいんだよ。やつきの傷だつて、もう痛くないし。でも蒼緒は普通の女の子だし」「そういうのを過保護で言つたのよ。…でもやつてえば衣路つて、蒼緒が傷つくるのをすくぐ嫌がるわよね」
- 158 衣路 「だつて普通に痛いのかやだら？」
- 159 紗凪 「痛ひつて言つても、ちょっとだけだし、傷だつてちつちやいのだよ…」
- 160 衣路 「…」
- 161 衣路 「…」
- 162 衣路 「…」
- 163 雪音 「…」
- 164 衣路 「…」
- 165 蒼緒 「…」
- 166 衣路 「…」
- 167 紗凪 「…」
- 168 蒼緒 「…」
- 169 雪音 「…」
- 170 紗凪 「…」
- 171 衣路 「…」
- 172 衣路 「…」
- 173 雪音 「…」
- 174 蒼緒 「…」
- 175 蒼緒 「…」
- 176 蒼緒 「…」
- 177 紗凪 「…」
- 178 蒼緒 「…」
- 179 紗凪 「…」

181	衣路	「え? もうだらう。そうかな。ただもう蒼緒が痛い思いするのが嫌で嫌でたまらなく嫌なんだよ…」
182	雪音	「重症ね」
183	雪音	「過保護だね」
184	紗凪	「おははは…。(のろけっぽく) でもそいが衣路ちゃんの優しいと いふていいか…」
185	蒼緒	「ほんばー、過保護なだけよ。…それでその程度の怪我でこうして三日も断食なんしていの?」
186		「は? だつてかわいそうだらー、あ、あと……… (小声で) はずかしい」
187	雪音	「は? だつてかわいそうだらー、あ、あと……… (小声で) はずかしい」
188		「は? だつてかわいそうだらー、あ、あと……… (小声で) はずかしい」
189	衣路	「は? だつてかわいそうだらー、あ、あと……… (小声で) はずかしい」
190		「は? だつてかわいそうだらー、あ、あと……… (小声で) はずかしい」
191	雪音	「は?」
192	衣路	「こや、あの…… (小声で) はずかしい」
193	雪音	「……あなたが恐るじくらいに蒼緒を大事にしているのはわかつたわ。けれど、さすがにその程度で三日も断食して任務に支障をきたすのはどうかと思うわね。あと恥ずかしつて言つた? 言つたわね?」
194		「こや…あの…?」
195		「蒼緒はあなたの花嫁でしょ? はずかしい? どういふ?」
196		「こや、ほら、こう…密着、する、だら。血で汚れないよ? ど、服装ぐし…なんか…」
197	衣路	「はあ? あなたヴァンプレールでしよう?」
198	雪音	「あ…まあ先輩。最初は僕も恥ずかしかった…し。え? と、蒼緒ちゃん、衣路ちゃんの花嫁になつてどのくらい、かな?」
199	衣路	「ええつ? あ、えと、は…半年、かな」
200		「…わよつ? 半年間もあなたたが、吸血するだけでひんなふうにわだもだだもだやつていてるの?」
201	雪音	「わだもだだもだやつていてるの?」
202	紗凪	「(蒼緒に) …なあ」
203		「ああもう、めんぐーれー、といふわけや、」
204	蒼緒	「ん?」
205	雪音	
206		
207	蒼緒	
208	衣路	
209	雪音	
210	衣路	

7



211 雪音  
「ああいひじ、吸血なさー」

212 衣路  
「ああいひじ、今いひじやめゆうか——せー。いひじや吸血!?!」

213 雪音  
「わう。だつてあなたお腹が空いてるんでしょーか。だつたら  
吸いなさー。アンドニールらしく堂々と!」

214 衣路  
「こやこやー、こつ吸おうが私の勝手だらへ」

215 衣路  
「こやこやー、こつ吸おうが私の勝手だらへ」

216 衣路  
「こ、タイツハグよくお腹の音が鳴る。

217 衣路  
「ふぐう…」

218 衣路  
「あいあい、私の空腹のせいで、大切な同僚を戦闘に巻き込むいへ  
だのはひじの誰だつたかしら?」

219 衣路  
「だいぶ楽しそうに参戦してただけだ」

220 雪音  
「ねだりなさー。とにかくあなたがそんな意気地のないアンプ  
ドールだから同僚を危険にさらすんです。あなたのくタレ…おみこ、  
その吸血恐怖症、今すぐ治しなさー!」

221 衣路  
「はああああ?」

222 衣路  
「あ…いめんね、蒼緒ちゃん。先輩言ひ出でときがなんから…」

223 雪音  
「つて紺組ちゃんまで?」

224 衣路  
「僕も、血は…吸えた方がいいかな?」

225 衣路  
「えええええー!」

226 衣路  
「わあー、吸いなさー、」このみやうじゅうだざー「宮衣路大尉!」

227 紺組  
「こやこやー、今いひじで…後で…後でちゃんと吸うか  
△ー!」

228 蒼緒  
「ふん、だめよー、そんな及び腰だからいつまでも止められぬに吸血  
のむつてもできないよ。吸いなさー」

229 紺組  
「あ、雪音さん、私が責任を持つてあとで吸わせますから…」

230 衣路  
「ふふふだめよ。軍人たるもの退けない時、退いてはいけない時が  
あるのー。わあ、お吸いなさー。進軍あるのみよー!」

231 雪音  
「……△」

232 衣路  
「……△。…………おのぉ…、雪音わーん」

233 衣路  
「蒼緒

- 241 雪音  
242 「なにかしら、 篠威<sup>しのぶ</sup>蒼緒中尉。 反説は認めないよ」  
243 「ふ、いえ、反説というか……では、お一人にお手本を見せて  
いただけないかなあ?」  
244 衣路  
245 「はあ!? 蒼緒、何言つて…」  
246 紗風 「あ、蒼緒ちゃん!」  
247 「(わそひそ声で衣路に) でないと吸わせられちゃうんだよー 一人  
の田の前で…」  
248 衣路 「(わそひそ) だ、だが、そんなの時間稼ぎにしかならないふー、む  
つかしさって私たちだって吸わされ…」  
249 蒼緒 「(わそひそ) その間になんとか逃げらんだよ、衣路ちゃん」  
250 衣路 「(わそひそ) そうか… そうしょーべ、蒼緒」  
251 雪音 「お手本…?」  
252 衣路 「わっですそーですー ガアンプームーとして、そして優秀な軍人  
の先輩として、ぜひとも花總大尉<sup>はなつなおとく</sup>と白藤中尉<sup>しらとうちゅう尉</sup>にお手本を…」  
253 蒼緒 「まあ? 確かに? 私たちが優秀な軍人というのは間違いないわ  
ね。紗風は少し気が弱いところがあるけれど、でもとてもがばしつ  
かりしてらるし、手本になるといろは多い…。何よりくじも可愛いら  
しいわー」  
254 衣路 「それ軍人に関係あるか?」  
255 雪音 「(食い気味に) いーでしょーー あなたたちにガアンプームーの  
しい吸血をお見せするわー」  
256 紗風 「せやせ先輩つ!」  
257 衣路 「わあ紗風、こちくらひしやー」  
258 雪音 「……う、だ、だめぐわよ。さあ、吸血を見せるだなんて…は、恥  
ずかしい、です…僕…」  
259 衣路 「おひ 照れてるの? やや、そんないのちも可愛いわ、私の紗  
風…」  
260 雪音 「う、だめですつてば、先輩。あ…」  
261 紗風 「引き寄せられる紗風。」

引き寄せられる紗屈。

軍服の上着のボタンを3つほど外す音。首筋あたりに優しく触れる雪音。

241	雪音	「なにかしい、 篠藏倉緒中尉。反謂は認めないでや」							
242	蒼緒	「ふ、ふ、反謂ひよか…、で、やが、や」人にお手本を貰ひや いただけないかなあ…」							
243		「はあ!? 蒼緒、何謂ひて…」							
244	衣路	「ふ、蒼緒ちやん!」							
245	紗凪	「(わふひ)声で衣路に) でないと吸わせられちゃうんだもー、一人 の田の前で…」							
246	蒼緒	「(わふひ)で衣路に) でないと吸わせられちゃうんだもー、一人 の田の前で…」							
247		「(わふひ)声で衣路に) でないと吸わせられちゃうんだもー、一人 の田の前で…」							
248	衣路	「(わふひ)だ、だが、そんなの時間稼ぎはしかなひなこ…、 わふほしたつて私たちだつて吸わせ…」							
249		「(わふひ)その間になんとか逃げらんだけ、衣路ちやん」							
250	蒼緒	「(わふひ)その間になんとか逃げらんだけ、衣路ちやん」							
251	衣路	「(わふひ)やつか…、やつか…、蒼緒」							
252	雪音	「お手本…~」							
253	蒼緒	「やつやつやつ…、ガトンパームルン…、そして優秀な軍人 の先輩として、せひとも花總大尉と白藤中尉にお手本を…」							
254		「ほあ? 確かに? 私たちが優秀な軍人といいのは間違いないわ ね。紗凪は少し気が弱いみたいがあるけれど、でもいいもね」							
255	雪音	かりして…、手本になるといいのは多く…。何よりのひても可愛い しじねー」							
256		「やつやつやつ…、ガトンパームルン…、そして優秀な軍人 の先輩として、せひとも花總大尉と白藤中尉にお手本を…」							
257		「ほあ? 確かに? 私たちが優秀な軍人といいのは間違いないわ ね。紗凪は少し気が弱いみたいがあるけれど、でもいいもね」							
258		かりして…、手本になるといいのは多く…。何よりのひても可愛い しじねー」							
259	衣路	「それ軍人に関係あるか?」							
260	雪音	「(食い気味に) こじりしよー、あなたたわにガトンパームルン し…、吸血をお見せするわー」							
261		「せせせ先輩つ?」							
262	紗凪	「わあ紗凪、こじりしよー」							
263	雪音	「……へ、だ、だめ…すよ。わあ、吸血を見せぬだなんてい…は、恥 わかし…、や…僕…」							
264	紗凪	「ね、照れて…るの? わ、そんないいわむ可愛いわ、私の紗							
265		「ね、照れて…るの? わ、そんないいわむ可愛いわ、私の紗							
266	雪音	「あ!」							
267		「あ!」							
271	雪音	「(耳元で囁くように) 紗凪は…見られるのが恥ずかしいの?」							
272		「へ、あ、当たり前…です。せ、先輩は美人だし目立つ人だから、 人は見られるも慣れてるかもしれないけど、僕は…地味…だし。							
273	紗凪	全然…可愛いもなこ」							
274		「あい、紗凪は…も可愛いわ。大きな瞳もやわらか…ほつぱむ、 しの、桜色の唇も…ね?」							
275		「へ、先輩…」							
276	雪音	「紗凪…」							
277		見つめあつて、いい雰囲気。							
278	紗凪	——が、雪音、衣路と蒼緒を振り返り、微笑を浮かべて。							
279	雪音	281		——が、雪音、衣路と蒼緒を振り返り、微笑を浮かべて。					
280		282		283		284	雪音	「やなみに逃げるような真似をしたら、逃」犯ひして私が責任をも つて衣路を処刑してあげるかい、覚悟なさいね」	
281		285		286	衣路・蒼緒「ひ」	287		288	雪音、紗凪を抱き寄せる。
282		289		290	雪音	291		292	紗凪のコートを脱がせる雪音。
283		293		294	紗凪	「あ…先輩…。だめ…や…。…ふたりが、見…」			
284		295		295	雪音	「大丈夫。すぐに気にならなくなるからね?」			
285		296		296	紗凪	「あ!」			

301	紗凪	「ん~。だめ…~、~、せんぱ…あ~」
302	雪音	「やや、紗凪…」
303		「わ~、~」
304		紗凪の腰を抱く雪音。
305		「紗凪…」
306	雪音	「紗凪… (首筋にキス、リップ音)」
307	紗凪	「ん~…~、~、先輩…~、せんぱ…~、だめ…~」
308	雪音	「…や~、ほんじう~、だめ? 紗凪は…いやなの?」
309	紗凪	「へ、~、こやじゅ~、~なら、けい、~」
310	雪音	「紗凪…」
311		「~」
312		「~、衣路、恥ずかしさのあまり立ち上がり~」
313		「~」
314	衣路	「んあー~!~、だめだ~!~、~」
315	蒼緒	「~、衣路ちゃん?」
316	衣路	「うわあーん!~」
317	蒼緒	「お、待つてよー!~」
318		「~」
319		逃げ帰る衣路、蒼緒。
320		「~」
321	雪音	「ち~、逃げたわね…」
322	紗凪	「お~、~。~行つわやつた」
323	雪音	「あ~た~、純情にもぼどがあるんだから。吸血できな~い~でないか こう事ぢ」
324		「あ~、~」
325	紗凪	「あ~、~」
326		「あ~、~」
327		「あ~、~」
328	雪音	「するわけないでしょ? 発破をかけただけよ」
329	紗凪	「よ、良かった」
330	雪音	「…や~、~めんなさ~、紗凪。私、いつもあなたを困らせてしも

014

11

331		「~」
332	紗凪	「わ~、~」
333		それにあのままだと~たらともかわいそ~だしね」
334	雪音	「え~、~」
335		「もかく、ありがとう、紗凪。~好きも」
336	紗凪	「…僕も、先輩が好き、だよ。僕、先輩の花嫁になれ、本当に幸
337		せなんだ。だつて…花嫁になったからこそ、先輩に世界一大事にや
338		れ~るつてわかる~」
339	雪音	「紗凪…」
340	紗凪	「先輩…」
341		「~」
342		見つめあ~。~
343		「~」
344	雪音	「紗凪… (キス、リップ音)」
345	紗凪	「ん~、~、だ、だめです。~、~、続~は部屋に帰つてかい?~」
346	雪音	「や~、~」
347	紗凪	「や~、~」

12



439 衣路  
「わー！ 人が眞面目に相談してゐてうのに」

440 雪音  
「私だつて眞面目よ？ 衣路はヴァンアンドールになつてから、はじめての友人だもの。…人間だつた頃、私をちやほやしていた人たちは一人残らずみんな私の元を離れたわ。…まあ、ヴァンアンドールはみんな多かれ少なかれそうだけれど」

441 衣路  
「……。……でもお前は…、家族に監禁されてたつて…」

442 衣路  
「名譽ある花總家に化け物なじいない——つてね。まあ結局は持て余して軍に捨てられたわけだけれど。おかげでだいぶ荒んだわね」

443 衣路  
「雪音…」

444 衣路  
「…いやだ、そんな顔しないで。過去の話よ。…でも、」

445 衣路  
「ん？」

446 衣路  
「紗風に会つて、私は変わる事ができた。紗風の優しさのお陰で人を恨まざにいらされた…」

447 衣路  
「……雪音…」

448 雪音  
「ヴァンアンドールと花嫁の関係は、兵糧だなんぞ揶揄されて、確かに捕食関係にはあるけれど、それだけじやない。命を預けあつて、命を与えるからこそ、ふたりだけの特別な絆がある。衣路と蒼緒、あなたたちだつてやうじよ？」

449 衣路  
「特別な絆…」

450 雪音  
「」

451 衣路  
「」

452 衣路  
「」

453 雪音  
「ヴァンアンドールと花嫁の関係は、兵糧だなんぞ揶揄されて、確かに捕食関係にはあるけれど、それだけじやない。命を預けあつて、命を与えるからこそ、ふたりだけの特別な絆がある。衣路と蒼緒、あなたたちだつてやうじよ？」

454 雪音  
「」

455 衣路  
「」

456 衣路  
「」

457 衣路  
「」

458 衣路  
「」

459 衣路/顔を上げて。  
「やうだな」

460 衣路  
「（樂しそうに）そ・れ・か・ら、痛みの少ない吸い方だけれどお」

461 衣路  
「お、おー！」

462 雪音  
「吸血つて確かに最初は痛いのだけれど、痛みつて慣れるのよね」

463 衣路  
「」

464 雪音  
「」

465 衣路  
「」

466 雪音  
「おお、痛み意外のいふにおいのわせてあげるといつか」

467 衣路  
「（舐める恐る）痛み…以外？」

468		雪音、純情な衣路をからかうよつこ
469	■廊下	
470		
471	雪音	
472		「花嫁をいーっぱい可愛がつてあげて、気持ちよおく、心も体もリラックスさせてあげて…ね？ …わかるやしょ？」
473	衣路	「……ひー」
474	雪音	「ほら…衣路だつて…蒼緒の事、大事なんでしょ？…痛い思ひやせたくないなー…ね？」
475		
476	衣路	「（恥ずかしそうに）それは…そう、だが…。…ぎ、気持ちよく、心も体もリラックスとは…具体的にいへ…」
477		
478		
479		雪音、衣路に耳打ち。
480		
481	雪音	「優しくキス…したりとか、あいは…（むやみや声）」
482		「んふ…」（なにかえつちないと言つてらる）
483	衣路	「な…ひー」
484		
485		オーバーヒートで衣路の頭からブンマーイン湯気が。
486		
487	雪音	「あいあい。ちよつとからかいすきめやつたわね」
488	衣路	「雪音え…」
489	雪音	「やめ、」
490	衣路	「ん？」
491		
492		雪音、衣路に向き直り、
493		
494	雪音	「ねえ、衣路。いつも蒼緒が笑顔のはむかしてだらけて…、いつもあの子のそばにいたのは、誰なのかしらね？」
495		
496	衣路	「……」
497		

498	ドアが閉じる音。	
499	■廊下	
500		
501	衣路	「蒼緒…私は…」
502		
503		幼馴染みとしての友情と、今の自分の胸の中の気持ちに揺れる衣路。蒼緒のことは好きだけれど、友情としてで、恋愛感情ではない。でも蒼緒のことは誰よりも大事にしたいと思うが、それをうまく言葉化できないもどかしさ。
504		
505		
506		
507	衣路	「蒼緒…私は…」
508		
509		

## ■第二話

- 508  
509  
510  
511  
512  
513  
514  
515  
516  
517  
518  
519  
520  
521  
522  
523  
524  
525  
526  
527  
528  
529  
530  
531  
532  
533  
534  
535  
536  
537  
538  
539  
540  
541  
542  
543  
544  
545  
546  
547  
548  
549  
550  
551  
552  
553  
554  
555  
556  
557  
558  
559  
560  
561  
562  
563  
564  
565  
566
- 「紗凪ちゃん、いあんね。中庭なんかに呼び出シト…」  
 「ううん、いいよ。僕なんかでよければ、なんでも話やへー」  
 「ありがとう、紗凪ちゃん…」  
 「紗凪に抱きつゝ蒼緒。  
 「うわわわわ、お、大袈裟だなあ、蒼緒ちゃんは。…でも、話つて、やつぱり…、吸血のこと…」  
 「うん…。私は衣路ちゃんに好きなどきに、好きなように吸血して、もひつてかまわないんだけど、衣路ちゃんは抵抗あるみたいで…。私のいと、ほんとはいやなのかなあって…」  
 「(即答して)いや、それはないと思うけど」  
 「え、え、そうかな?」  
 「うん。それに衣路ちゃんの性格かいするし、好きでもない子を花嫁にはできないと思うなあ」  
 「ふ…そつか。そうだよね。でも…。私の好きとい路ちゃんの好きなは、全然違うから…」  
 「蒼緒ちゃん…」  
 「…好きって、何かな? 私は、ただ、衣路ちゃんの支えになりたくて、花嫁になつたはずなのに、いつの間にか、衣路ちゃんの特別になりたいって、思つちゃつて。…嫌なのにな、そんなの。…衣路ちゃんの負担になりたくないのに」  
 「い、嫌なことなんかじやないよ、そんなの」  
 「誰かの特別になりたいって思うのは、だめことなのかな?」  
 「わ、わかんないけど。でも、少なくとも衣路ちゃんにとつてば、



私は特別なんかじやないんだよ」「そんなこじやないよ。あんない衣路ちゃん、蒼緒ちゃんのいと、大切に思つてるじゃないか!」「でも。私の特別とは、やつぱり違うよ。私の思う大切と衣路ちゃんの思う大切は同じじゃないもん」

「…蒼緒ちゃん…」「…」  
 「最初は、ちっちゃい頃は、衣路ちゃんの隣に、くられればよかつたんだ。おつみをう思つてた。…けど。衣路ちゃんがヴァンパイアだつてわかつて、衣路ちゃんをえてあげたいつて思つて、花嫁になるつて言つて、衣路ちゃんも受け入れてくれて。…でも、違つたの」「…違つた?」

「衣路ちゃんを支えてあげたいからじやなかつた。ただ、本当は、衣路ちゃんがほかの誰かの血を吸うなんて嫌だつたから。それに気づいた時、私つてすいしやな子なんだつて思つた。全然、衣路ちゃんのためなんかじやなかつた…!」

「蒼緒ちゃん…」「それに私…花嫁になれば、衣路ちゃんの特別になれるんじやないかつて、じいかで期待してた…!」「…。みんな…そだよ。僕だつて、もしも先輩が他の女の子の血を吸つたりしたら…いやだよ。僕だつて先輩の特別でいたいんだ…。やう思つるのは、だめな」とじや、なんよね?」「…ダメじやや…ないと思つ。でも、…なんか、…なんでだろ。…苦しいよ。自分で選んだことなのに。自分で花嫁になつたのに。…支えてあげたいつて、思つてたはずなのに…」

「…」  
 「私、全然、思つた通りの花嫁さんに…なれてないや。衣路ちゃんが好きなはずなの!」…………好きつて、…なんだろ」「蒼緒ちゃん…」

567  
蒼緒、話題を変えるように。

597

：「なんでもない」

「あのせ、紗風ちゃんと雪音さんって…その、つ、付き合ってるん  
蒼緒

「え？ なに？ 気になるじやん。それに、なに？」  
「え……それに、吸う時はいつも、先輩がいろいろ……して、くれるから」

「え? え? ぼ、僕たちのいじや、……いや、……えつぶ、えつ  
ぶ……いじや」

574 真っ赤になる、紗凪。

604 紗風 「……ひー、もうー、からかわないでやめー」  
605 蒼緒 「からかつてない、からかつてないよー、いー

「いいなあ。…雪音さんって、美人だし軍の中でもファンがいっぱいいるし、素敵だもんね」

「…ひ、 めいかー」「…ひ、 めいかー」  
「じやあ、 私が痛くねーんだにゃが、 衣落ちゃん、 吸血してくるのかな  
606 紗風  
607 菅緒

う時もあるけど、でも本当は強がっているだけで、すつごく寂しがりやで甘えん坊で、…可愛いんだ」

609  
610  
611  
612  
613  
614  
615  
616  
617  
618  
619  
620  
621  
622  
623  
624  
625  
626  
627  
628  
629  
630  
631  
632  
633  
634  
635  
636  
637  
638  
639  
640  
641  
642  
643  
644  
645  
646  
647  
648  
649  
650  
651  
652  
653  
654  
655  
656  
657  
658  
659  
660  
661  
662  
663  
664  
665  
666  
667  
668  
669  
670  
671  
672  
673  
674  
675  
676  
677  
678  
679  
680  
681  
682  
683  
684  
685  
686  
687  
688  
689  
690  
691  
692  
693  
694  
695  
696  
697  
698  
699  
700  
701  
702  
703  
704  
705  
706  
707  
708  
709  
710  
711  
712  
713  
714  
715  
716  
717  
718  
719  
720  
721  
722  
723  
724  
725  
726  
727  
728  
729  
730  
731  
732  
733  
734  
735  
736  
737  
738  
739  
740  
741  
742  
743  
744  
745  
746  
747  
748  
749  
750  
751  
752  
753  
754  
755  
756  
757  
758  
759  
760  
761  
762  
763  
764  
765  
766  
767  
768  
769  
770  
771  
772  
773  
774  
775  
776  
777  
778  
779  
779  
780  
781  
782  
783  
784  
785  
786  
787  
788  
789  
789  
790  
791  
792  
793  
794  
795  
796  
797  
798  
799  
800  
801  
802  
803  
804  
805  
806  
807  
808  
809  
809  
810  
811  
812  
813  
814  
815  
816  
817  
818  
819  
819  
820  
821  
822  
823  
824  
825  
826  
827  
828  
829  
829  
830  
831  
832  
833  
834  
835  
836  
837  
838  
839  
839  
840  
841  
842  
843  
844  
845  
846  
847  
848  
849  
849  
850  
851  
852  
853  
854  
855  
856  
857  
858  
859  
859  
860  
861  
862  
863  
864  
865  
866  
867  
868  
869  
869  
870  
871  
872  
873  
874  
875  
876  
877  
878  
879  
879  
880  
881  
882  
883  
884  
885  
886  
887  
888  
889  
889  
890  
891  
892  
893  
894  
895  
896  
897  
898  
899  
900  
901  
902  
903  
904  
905  
906  
907  
908  
909  
909  
910  
911  
912  
913  
914  
915  
916  
917  
918  
919  
919  
920  
921  
922  
923  
924  
925  
926  
927  
928  
929  
929  
930  
931  
932  
933  
934  
935  
936  
937  
938  
939  
939  
940  
941  
942  
943  
944  
945  
946  
947  
948  
949  
949  
950  
951  
952  
953  
954  
955  
956  
957  
958  
959  
959  
960  
961  
962  
963  
964  
965  
966  
967  
968  
969  
969  
970  
971  
972  
973  
974  
975  
976  
977  
978  
979  
979  
980  
981  
982  
983  
984  
985  
986  
987  
988  
989  
989  
990  
991  
992  
993  
994  
995  
996  
997  
998  
999  
1000  
1001  
1002  
1003  
1004  
1005  
1006  
1007  
1008  
1009  
1009  
1010  
1011  
1012  
1013  
1014  
1015  
1016  
1017  
1018  
1019  
1019  
1020  
1021  
1022  
1023  
1024  
1025  
1026  
1027  
1028  
1029  
1029  
1030  
1031  
1032  
1033  
1034  
1035  
1036  
1037  
1038  
1039  
1039  
1040  
1041  
1042  
1043  
1044  
1045  
1046  
1047  
1048  
1049  
1049  
1050  
1051  
1052  
1053  
1054  
1055  
1056  
1057  
1058  
1059  
1059  
1060  
1061  
1062  
1063  
1064  
1065  
1066  
1067  
1068  
1069  
1069  
1070  
1071  
1072  
1073  
1074  
1075  
1076  
1077  
1078  
1079  
1079  
1080  
1081  
1082  
1083  
1084  
1085  
1086  
1087  
1088  
1089  
1089  
1090  
1091  
1092  
1093  
1094  
1095  
1096  
1097  
1098  
1099  
1100  
1101  
1102  
1103  
1104  
1105  
1106  
1107  
1108  
1109  
1109  
1110  
1111  
1112  
1113  
1114  
1115  
1116  
1117  
1118  
1119  
1119  
1120  
1121  
1122  
1123  
1124  
1125  
1126  
1127  
1128  
1129  
1129  
1130  
1131  
1132  
1133  
1134  
1135  
1136  
1137  
1138  
1139  
1139  
1140  
1141  
1142  
1143  
1144  
1145  
1146  
1147  
1148  
1149  
1149  
1150  
1151  
1152  
1153  
1154  
1155  
1156  
1157  
1158  
1159  
1159  
1160  
1161  
1162  
1163  
1164  
1165  
1166  
1167  
1168  
1169  
1169  
1170  
1171  
1172  
1173  
1174  
1175  
1176  
1177  
1178  
1179  
1179  
1180  
1181  
1182  
1183  
1184  
1185  
1186  
1187  
1188  
1189  
1189  
1190  
1191  
1192  
1193  
1194  
1195  
1196  
1197  
1198  
1199  
1200  
1201  
1202  
1203  
1204  
1205  
1206  
1207  
1208  
1209  
1209  
1210  
1211  
1212  
1213  
1214  
1215  
1216  
1217  
1218  
1219  
1219  
1220  
1221  
1222  
1223  
1224  
1225  
1226  
1227  
1228  
1229  
1229  
1230  
1231  
1232  
1233  
1234  
1235  
1236  
1237  
1238  
1239  
1239  
1240  
1241  
1242  
1243  
1244  
1245  
1246  
1247  
1248  
1249  
1249  
1250  
1251  
1252  
1253  
1254  
1255  
1256  
1257  
1258  
1259  
1259  
1260  
1261  
1262  
1263  
1264  
1265  
1266  
1267  
1268  
1269  
1269  
1270  
1271  
1272  
1273  
1274  
1275  
1276  
1277  
1278  
1279  
1279  
1280  
1281  
1282  
1283  
1284  
1285  
1286  
1287  
1288  
1289  
1289  
1290  
1291  
1292  
1293  
1294  
1295  
1296  
1297  
1298  
1299  
1300  
1301  
1302  
1303  
1304  
1305  
1306  
1307  
1308  
1309  
1309  
1310  
1311  
1312  
1313  
1314  
1315  
1316  
1317  
1318  
1319  
1319  
1320  
1321  
1322  
1323  
1324  
1325  
1326  
1327  
1328  
1329  
1329  
1330  
1331  
1332  
1333  
1334  
1335  
1336  
1337  
1338  
1339  
1339  
1340  
1341  
1342  
1343  
1344  
1345  
1346  
1347  
1348  
1349  
1349  
1350  
1351  
1352  
1353  
1354  
1355  
1356  
1357  
1358  
1359  
1359  
1360  
1361  
1362  
1363  
1364  
1365  
1366  
1367  
1368  
1369  
1369  
1370  
1371  
1372  
1373  
1374  
1375  
1376  
1377  
1378  
1379  
1379  
1380  
1381  
1382  
1383  
1384  
1385  
1386  
1387  
1388  
1389  
1389  
1390  
1391  
1392  
1393  
1394  
1395  
1396  
1397  
1398  
1399  
1400  
1401  
1402  
1403  
1404  
1405  
1406  
1407  
1408  
1409  
1409  
1410  
1411  
1412  
1413  
1414  
1415  
1416  
1417  
1418  
1419  
1419  
1420  
1421  
1422  
1423  
1424  
1425  
1426  
1427  
1428  
1429  
1429  
1430  
1431  
1432  
1433  
1434  
1435  
1436  
1437  
1438  
1439  
1439  
1440  
1441  
1442  
1443  
1444  
1445  
1446  
1447  
1448  
1449  
1449  
1450  
1451  
1452  
1453  
1454  
1455  
1456  
1457  
1458  
1459  
1459  
1460  
1461  
1462  
1463  
1464  
1465  
1466  
1467  
1468  
1469  
1469  
1470  
1471  
1472  
1473  
1474  
1475  
1476  
1477  
1478  
1479  
1479  
1480  
1481  
1482  
1483  
1484  
1485  
1486  
1487  
1488  
1489  
1489  
1490  
1491  
1492  
1493  
1494  
1495  
1496  
1497  
1498  
1499  
1500  
1501  
1502  
1503  
1504  
1505  
1506  
1507  
1508  
1509  
1509  
1510  
1511  
1512  
1513  
1514  
1515  
1516  
1517  
1518  
1519  
1519  
1520  
1521  
1522  
1523  
1524  
1525  
1526  
1527  
1528  
1529  
1529  
1530  
1531  
1532  
1533  
1534  
1535  
1536  
1537  
1538  
1539  
1539  
1540  
1541  
1542  
1543  
1544  
1545  
1546  
1547  
1548  
1549  
1549  
1550  
1551  
1552  
1553  
1554  
1555  
1556  
1557  
1558  
1559  
1559  
1560  
1561  
1562  
1563  
1564  
1565  
1566  
1567  
1568  
1569  
1569  
1570  
1571  
1572  
1573  
1574  
1575  
1576  
1577  
1578  
1579  
1579  
1580  
1581  
1582  
1583  
1584  
1585  
1586  
1587  
1588  
1589  
1589  
1590  
1591  
1592  
1593  
1594  
1595  
1596  
1597  
1598  
1599  
1600  
1601  
1602  
1603  
1604  
1605  
1606  
1607  
1608  
1609  
1609  
1610  
1611  
1612  
1613  
1614  
1615  
1616  
1617  
1618  
1619  
1619  
1620  
1621  
1622  
1623  
1624  
1625  
1626  
1627  
1628  
1629  
1629  
1630  
1631  
1632  
1633  
1634  
1635  
1636  
1637  
1638  
1639  
1639  
1640  
1641  
1642  
1643  
1644  
1645  
1646  
1647  
1648  
1649  
1649  
1650  
1651  
1652  
1653  
1654  
1655  
1656  
1657  
1658  
1659  
1659  
1660  
1661  
1662  
1663  
1664  
1665  
1666  
1667  
1668  
1669  
1669  
1670  
1671  
1672  
1673  
1674  
1675  
1676  
1677  
1678  
1679  
1679  
1680  
1681  
1682  
1683  
1684  
1685  
1686  
1687  
1688  
1689  
1689  
1690  
1691  
1692  
1693  
1694  
1695  
1696  
1697  
1698  
1699  
1700  
1701  
1702  
1703  
1704  
1705  
1706  
1707  
1708  
1709  
1709  
1710  
1711  
1712  
1713  
1714  
1715  
1716  
1717  
1718  
1719  
1719  
1720  
1721  
1722  
1723  
1724  
1725  
1726  
1727  
1728  
1729  
1729  
1730  
1731  
1732  
1733  
1734  
1735  
1736  
1737  
1738  
1739  
1739  
1740  
1741  
1742  
1743  
1744  
1745  
1746  
1747  
1748  
1749  
1749  
1750  
1751  
1752  
1753  
1754  
1755  
1756  
1757  
1758  
1759  
1759  
1760  
1761  
1762  
1763  
1764  
1765  
1766  
1767  
1768  
1769  
1769  
1770  
1771  
1772  
1773  
1774  
1775  
1776  
1777  
1778  
1779  
1779  
1780  
1781  
1782  
1783  
1784  
1785  
1786  
1787  
1788  
1789  
1789  
1790  
1791  
1792  
1793  
1794  
1795  
1796  
1797  
1798  
1799  
1800  
1801  
1802  
1803  
1804  
1805  
1806  
1807  
1808  
1809  
1809  
1810  
1811  
1812  
1813  
1814  
1815  
1816  
1817  
1818  
1819  
1819  
1820  
1821  
1822  
1823  
1824  
1825  
1826  
1827  
1828  
1829  
1829  
1830  
1831  
1832  
1833  
1834  
1835  
1836  
1837  
1838  
1839  
1839  
1840  
1841  
1842  
1843  
1844  
1845  
1846  
1847  
1848  
1849  
1849  
1850  
1851  
1852  
1853  
1854  
1855  
1856  
1857  
1858  
1859  
1859  
1860  
1861  
1862  
1863  
1864  
1865  
1866  
1867  
1868  
1869  
1869  
1870  
1871  
1872  
1873  
1874  
1875  
1876  
1877  
1878  
1879  
1879  
1880  
1881  
1882  
1883  
1884  
1885  
1886  
1887  
1888  
1889  
1889  
1890  
1891  
1892  
1893  
1894  
1895  
1896  
1897  
1898  
1899  
1900  
1901  
1902  
1903  
1904  
1905  
1906  
1907  
1908  
1909  
1909  
1910  
1911  
1912  
1913  
1914  
1915  
1916  
1917  
1918  
1919  
1919  
1920  
1921  
1922  
1923  
1924  
1925  
1926  
1927  
1928  
1929  
1929  
1930  
1931  
1932  
1933  
1934  
1935  
1936  
1937  
1938  
1939  
1939  
1940  
1941  
1942  
1943  
1944  
1945  
1946  
1947  
1948  
1949  
1949  
1950  
1951  
1952  
1953  
1954  
1955  
1956  
1957  
1958  
1959  
1959  
1960  
1961  
1962  
1963  
1964  
1965  
1966  
1967  
1968  
1969  
1969  
1970  
1971  
1972  
1973  
1974  
1975  
1976  
1977  
1978  
1979  
1979  
1980  
1981  
1982  
1983  
1984  
1985  
1986  
1987  
1988  
1989  
1989  
1990  
1991  
1992  
1993  
1994  
1995  
1996  
1997  
1998  
1999  
2000  
2001  
2002  
2003  
2004  
2005  
2006  
2007  
2008  
2009  
2009  
2010  
2011  
2012  
2013  
2014  
2015  
2016  
2017  
2018  
2019  
2019  
2020  
2021  
2022  
2023  
2024  
2025  
2026  
2027  
2028  
2029  
2029  
2030  
2031  
2032  
2033  
2034  
2035  
2036  
2037  
2038  
2039  
2039  
2040  
2041  
2042  
2043  
2044  
2045  
2046  
2047  
2048  
2049  
2049  
2050  
2051  
2052  
2053  
2054  
2055  
2056  
2057  
2058  
2059  
2059  
2060  
2061  
2062  
2063  
2064  
2065  
2066  
2067  
2068  
2069  
2069  
2070  
2071  
2072  
2073  
2074  
2075  
2076  
2077  
2078  
2079  
2079  
2080  
2081  
2082  
2083  
2084  
2085  
2086  
2087  
2088  
2089  
2089  
2090  
2091  
2092  
2093  
2094  
2095  
2096  
2097  
2098  
2099  
2100  
2101  
2102  
2103  
2104  
2105  
2106  
2107  
2108  
2109  
2109  
2110  
2111  
2112  
2113  
2114  
2115  
2116  
2117  
2118  
2119  
2119  
2120  
2121  
2122  
2123  
2124  
2125  
2126  
2127  
2128  
2129  
2129  
2130  
2131  
2132  
2133  
2134  
2135  
2136  
2137  
2138  
2139  
2139  
2140  
2141  
2142  
2143  
2144  
2145  
2146  
2147  
2148  
2149  
2149  
2150  
2151  
2152  
2153  
2154  
2155  
2156  
2157  
2158  
2159  
2159  
2160  
2161  
2162  
2163  
2164  
2165  
2166  
2167  
2168  
2169  
2169  
2170  
2171  
2172  
2173  
2174  
2175  
2176  
2177  
2178  
2179  
2179  
2180  
2181  
2182  
2183  
2184  
2185  
2186  
2187  
2188  
2189  
2189  
2190  
2191  
2192  
2193  
2194  
2195  
2196  
2197  
2198  
2199  
2200  
2201  
2202  
2203  
2204  
2205  
2206  
2207  
2208  
2209  
2209  
2210  
2211  
2212  
2213  
2214  
2215  
2216  
2217  
2218  
2219  
2219  
2220  
2221  
2222  
2223  
2224  
2225  
2226  
2227  
2228  
2229  
2229  
2230  
2231  
2232  
2233  
2234  
2235  
2236  
2237  
2238  
2239  
2239  
2240  
2241  
2242  
2243  
2244  
2245  
2246  
2247  
2248  
2249  
2249  
2250  
2251  
2252  
2253  
2254  
2255  
2256  
2257  
2258  
2259  
2259  
2260  
2261  
2262  
2263  
2264  
2265  
2266  
2267  
2268  
2269  
2269  
2270  
2271  
2272  
2273  
2274  
2275  
2276  
2277  
2278  
2279  
2279  
2280  
2281  
2282  
2283  
2284  
2285  
2286  
2287  
2288  
2289  
2289  
2290  
2291  
2292  
2293  
2294  
2295  
2296  
2297  
2298  
2299  
2300  
2301  
2302  
2303  
2304  
2305  
2306  
2307  
2308  
2309  
2309  
2310  
2311  
2312  
2313  
2314  
2315  
2316  
2317  
2318  
2319  
2319  
2320  
2321  
2322  
2323  
2324  
2325  
2326  
2327  
2328  
2329  
2329  
2330  
2331  
2332  
2333  
2334  
2335  
2336  
2337  
2338  
2339  
2339  
2340  
2341  
2342  
2343  
2344  
2345  
2346  
2347  
2348  
2349  
2349  
2350  
2351  
2352  
2353  
2354  
2355  
2356  
2357  
2358  
2359  
2359  
2360  
2361  
2362  
2363  
2364  
2365  
2366  
2367  
2368  
2369  
2369  
2370  
2371  
2372  
2373  
2374  
2375  
2376  
2377  
2378  
2379  
2379  
2380  
2381  
2382  
2383  
2384  
2385  
2386  
2387  
2388  
2389  
2389  
2390  
2391  
2392  
2393  
2394  
2395  
2396  
2397  
2398  
2399  
2400  
2401  
2402  
2403  
2404  
2405  
2406  
2407  
2408  
2409  
2409  
2410  
2411  
2412  
2413  
2414  
2415  
2416  
2417  
2418  
2419  
2419  
2420  
2421  
2422  
2423  
2424  
2425  
2426  
2427  
2428  
2429  
2429  
2430  
2431  
2432  
2433  
2434  
2435  
2436  
2437  
2438  
2439  
2439  
2440  
2441  
2442  
2443  
2444  
2445  
2446  
2447  
2448  
2449  
2449  
2450  
2451  
2452  
2453  
2454  
2455  
2456  
2457  
2458  
2459  
2459  
2460  
2461  
2462  
2463  
2464  
2465  
2466  
2467  
2468  
2469  
2469  
2470  
2471  
2472  
2473  
2474  
2475  
2476  
2477  
2478  
2479  
2479  
2480  
2481  
2482  
2483  
2484  
2485  
2486  
2487  
2488  
2489  
2489  
2490  
2491  
2492  
2493  
2494  
2495  
2496  
2497  
2498  
2499  
2500  
2501  
2502  
2503  
2504  
2505  
2506  
2507  
2508  
2509  
2509  
2510  
2511  
2512  
2513  
2514  
2515  
2516  
2517  
2518  
2519  
2519  
2520  
2521  
2522  
2523  
2524  
2525  
2526  
2527  
2528  
2529  
2529  
2530  
2531  
2532  
2533  
2534  
2535  
2536  
2537  
2538  
2539  
2539  
2540  
2541  
2542  
2543  
2544  
2545  
2546  
2547  
2548  
2549  
2549  
2550  
2551  
2552  
2553  
2554  
2555  
2556  
2557  
2558  
2559  
2559  
2560  
2561  
2562  
2563  
2564  
2565  
2566  
2567  
2568  
2569  
2569  
2570  
2571  
2572  
2573  
2574

「え？ い、衣路ちゃんだつて素敵でし

「え――――――。そ、そんなの……き、キス、かな？」

583 「ええ～？ まあ エースって言われてるくらい強いし？ かっこいいし？ 雪音さんはどういなあいけど、ファンだつているし？ …

584 まあ、雪音さんにはへタレつて言われちやつたけど」

585

613 細匠 細匠 「え――！ あ、蒼緋ちゃんから、さ、訊うの？」

614 蒼緋 蒼緋 「え――！ そんな私からとか無理だよ！ でも、でもね、実は

615 ね、一回だけ、キス、したことあって」

616 紗風 紗風 「え――！ いつ？ いつ？ いついつ？」

「…………。好き」  
「えぐ、と笑い合う二人。  
589 蒼絨 588

「四日くらい前…。実は、武器科の椎衣那少佐にキマ  
らひしないんじやないかって言われて」  
「あー…椎衣那少佐…。…それで、吸血できた？」  
「それが…しようと思つたらタイミングが悪くて…」  
「タイミング？」

「あー…椎衣那少佐…。…それで、吸血できた？」

592 紗耶  
593 蒼緒 「うーん、蒼緒ちゃんが痛い思いするのが嫌みたいだけど…」「私は別に痛くてもいいんだけどなあ…。注射みたいなものだし。

「あー……椎衣那少佐。……それで、吸血できた？」  
「それが…しようと思つたらタイミングが悪くて…」  
「タイミング?」

「だ、大浴場だったから、紗風ちゃんと雪音さんが入つて来ちゃつ  
た…」

「え? ええ? あの時? ジめん! 全然わからなくてー」  
「ひや、わからなくて当然だよ…。で、そしたの? その後お互い

594 それに衣路ちやんが吸ってくれるなら、痛いのも、…気にならない  
595 し。…紗脣ちやんは？ やつぱり痛い？」  
596 「僕？ 僕も痛みはあんまり気にならない方、かなあ。それに、…

「え？　ええ？　あの時？　いめん！　全然わからなくて…」  
「いや、わからなくて当然だよ…。で、そしたのを、その後お互  
いなんか意識しちゃって、全然うまく吸血できなくなつて。遠慮する

628 紗凧 「から牙がうまく刺さるがねって」  
629 蒼緒 「それで、怪我しちやつたの?」  
630 紗凧 「うん…」  
631 蒼緒 「それで衣路ちゃん、落ち込んでるんだ」  
632 紗凧 「うん…」  
633 蒼緒 「全然喧嘩じゃないね…」  
634 紗凧 「うん…。だから、謝る方がいいのも違くて、余計に気まずいって」  
635 紗凧 「……」  
636 蒼緒 「……」  
637 紗凧 「……あの、さ、もう1回…キスしちゃえば、…シンルじゃないかな?」  
638 蒼緒 「くえええええ? む、もう1回?! む、無理だよ。はじめでした  
639 時だって、いっぱいぱいだったんだから! わい1回とか無理無  
640 理無理無理!」  
641 紗凧 「でも…衣路ちゃんもしてくれたんでしょ?」  
642 蒼緒 「それは、ああ、…そうだけど。でも…して、くれるかな?」  
643 紗凧 「…蒼緒ちゃんがしたいって言えば、衣路ちゃんならしてくれれる  
644 紗凧 「…」  
645 蒼緒 「思ひ切る?」  
646 蒼緒 「そ、それって、私から誘つてるみたいっていうか、誘つてる…。  
647 紗凧 「む…無理だよ。してくれるか、わかんないし」  
648 蒼緒 「大丈夫だよ…。衣路ちゃんだけ吸わなくちゃいけないって思つてた  
649 紗凧 「いだし、…ねー」  
650 蒼緒 「う、うん…。じやあ、言つてみるけど…」  
651 紗凧 「蒼緒ちゃん、頑張つて!」  
652 蒼緒 「うん…」  
653 紗凧 「砂利が砂の上を歩く足音(重い足取り)。中庭から建物へ。  
654 ドアを開けて、バタンと扉の閉まる音。  
655 ■廊下。



658 「へは言つたものの…、キス…なんて無理だよ…。  
659 それに、なんか衣路ちゃんを騙すみたいで…。はあ」  
660  
661 閉めたドアにもたれる蒼緒  
662  
663 蒼緒 M  
664 (好きって…なんだかう。ちつちつい頃は一緒にいるだけで楽しく  
665 て、それだけで良かつたのに…。花嫁になつたのだから、ただ衣路  
666 ちゃんを支えてあげたかっただけなのに。それなのに今は…、花嫁  
667 でいれば衣路ちゃんの特別になれるとかもつて…期待して…。  
668 …花嫁だからって、全員がヴァンプドールの特別になれわけじや  
669 ないの?…)

670 涙ぐむ蒼緒。

671

672 蒼緒

673 「ばかみたい。……はあ（ため息）」

674 もいく足音。廊下の奥から衣路が。

675

676 衣路  
677 蒼緒  
678 「蒼緒…? どうかしたのか?」（蒼緒と鉢合わせして、動搖ぎみ）  
「ふん… 衣路ちゃん! な、なんでもないよー。ちゅうぶ、田ばけ!!」  
が入っちゃつて」

679 衣路  
680 蒼緒  
681 衣路  
682 蒼緒  
683 衣路  
684 蒼緒  
「あら、蒼緒。ちよつと…こゝか?」  
「え…?」

第四話

686

■廊下（夜）

689 バタンとドアの閉まる音。

## ■兵舎・蒼緒と衣路の部屋

「え、衣路ちゃん、話って、ね?」

693 衣路 「心…」

694 蒼緒「……」

695

お互いになんたか気ますい。

698

「あのさ、蒼緒——」

700

101  
702 なにか言いかけるが、お腹の音が鳴る。

703 衣路

「い、衣路ちゃん、お腹すいたよね。」  
蒼緒

705  
706

707  
1981

708

709 衣路  
「蒼緒」

710

117  
712 衣路、蒼緒の手を取る。

713 蒼緒 「ふ、衣路ちゃん…？」

「今日は、ごめん。私のせいで、いざ  
衣路

745	衣路	「蒼緒…」
746	蒼緒	「衣路ちゃん」
747		
748		蒼緒がコートを脱ぐ音。
749		上着のボタンを3つほど外す音。
750		
751	蒼緒	「はく。…吸って… ふふから、痛くしかも。衣路ちゃんの牙ない、
752		衣路ちゃんなんていいくらい。だつて、私、衣路ちゃんの親友だもん」
753	衣路	「……」
754		
755		衣路 決意して。
756		
757	衣路	「蒼緒。望んでないわけじや、ない。蒼緒に痛い思いをさせたくないのは本当だかい。
758		
759		だから、蒼緒を気持ちよくなりやいれるかは、わからないけど、私が
760		…したいんだ。だめかな~」
761	蒼緒	「衣路ちゃん…」
762		
763		蒼緒、衣路が同情込みで言つてふゆのがわかる。でも嬉しい。複雑な心境。
764		
765		
766	蒼緒	「……。うん、（顔を上げて、衣路のためにわざわざしょんぼり）わかつた」
767		
768	衣路	「蒼緒…」（緊張しつつも迷ひ心地）
769		「ひやあ… わゆか~」
770	蒼緒	「……へん…」
771	衣路	「……。ほんとに わゆか~」
772	蒼緒	「……へん」
773	衣路	「……………（触れるだけのキス、リップ音）」
774	蒼緒	「ん~…」

775	衣路	「（もう一度触れるだけのキス、リップ音）」
776	蒼緒	「へ、」
777	衣路	「（囁いて） ……。き、気持ちいい？」
778	蒼緒	「ね、わかんない…けど、……へ、ドキドキ…わくわく」
779	衣路	「蒼緒……。（触れるだけのキス、リップ音）」
780	蒼緒	「ん…~」
781		
782		お互い息を止めていたので、衣路、蒼緒、呼吸音。
783		
784	衣路	「蒼緒… 私も、ニキビキ、……してる」
785	蒼緒	「へん…。…………へ、こころ、……吸つて、衣路ちゃん
786		
787		蒼緒、ボタンをさむは3つほど、外す音。
788		
789	衣路	「へ、蒼緒…」
790		
791		ベッドが軋む音。
792		
793	衣路	「（首筋に吸血。息）」（リップ音だらけ品になるかもなので、息で）
794		
795	蒼緒	「ん~……~（牙、ちよつと痛い）ん~ん~、……~」
796	衣路	「（吸血。息）」
797	蒼緒	「ん……~、衣路ちゃん~、ん、ん~」
798		
799		蒼緒、思わず衣路を抱きしめる。（衣ずれの音）
800		
801	蒼緒	「ふふふわ、わや、…~、ん、んん——~」
802		
803		吸血おわ~い。
804		ベッドに倒れ込む蒼緒と衣路。

互いに囁き合ふ。(エ)ロートーク的な甘い感じに)

「…うして私たちは、よひやへ吸血できたのでした」

805 衣路  
806 蒼緒

「ん…」

808 衣路  
809 蒼緒

「(遠慮しがちに、心配そうに) …蒼緒、……痛かったか?」「(貧血で少し疲れて氣怠げに) ん…、大丈夫」

810 衣路  
811 蒼緒

「…ほんとに?」

812 衣路  
813 衣路

「…ほんとに?」(ほんとは痛かつた。でも痛みとかどうでもいい)

814 衣路  
815 衣路

「…そつか」「衣路ちゃんは…? お腹いつぱいに…なつた?」「…うん。なつたよ」

816 衣路  
817 衣路

「うん。三口も吸つてなかつたんだよ? …遠慮、したでしょ?」「……」

818 衣路  
819 衣路

「…わわ。こつぱん吸つていいのに。…あ?」(あだ、吸つて?)

820 衣路  
821 衣路

「…じゅあ、痛くないよう? またキスしてくれる?」「…うん」

822 衣路  
823 衣路

「(少し)眠そうに」(ふふ、今度は、こつぱん吸つてね?)

824 衣路  
825 衣路  
826 衣路  
827 衣路  
828 衣路  
829 衣路  
830 衣路  
831 衣路  
832 衣路  
833 衣路  
834 衣路

蒼緒 M

「…うして私たちは、よひやへ吸血できたのでした」

835 衣路  
836 衣路

「…うして私たちは、よひやへ吸血できたのでした」

蒼緒 M

「…うして私たちは、よひやへ吸血できたのでした」



- 886 雪音 「あい、お腹こりぱこになるまで吸血するなんて……ふふ」
- 887 蒼緒 「ち、違うまか… …ひ、違わないけど… ああ、わへ、衣路ちゃん起きてみねー」
- 888 衣路 「おあ……あお…? なんであおがわたしのベッドに…ひ、蒼緒?」
- 889 衣路 「つて、驚くのはこゝから、起きて着替えてよお、衣路ちゃん!」
- 890 衣路 「んん? お…おうー」
- 891 衣路 「んん? お…おうー」
- 892 衣路 「んん? お…おうー」
- 893 衣路 バタバタとベッドを飛び降りる一人。
- 894 衣類を手渡す蒼緒。
- 895 衣類を手渡す蒼緒。
- 896 衣路 「衣路ちゃん、はー、上着とスカート… あああんはーー」
- 897 衣路 「あ、ああ、ありがと。…あ、蒼緒、あのやー」
- 898 衣路 「ええ、衣路ちゃんになに! 急ごやー!」
- 899 衣路 「点呼の後、ちよりどいいか?」
- 900 衣路 「え? い?」
- 901 衣路 「え? い?」
- 902 衣路 「え? い?」
- 903 ■兵舎玄関付近
- 904 衣路 やわらぎ。入り乱れる足音。
- 905 衣路 「点呼終わっただけ? 衣路ちゃん、えいがした?」
- 906 衣路 「いや、およつといつちに来てくれるか?」
- 907 衣路 「い?」
- 908 衣路 「い?」
- 909 衣路 「い?」
- 910 衣路 一人分の足音。
- 911 衣路 「衣路ちゃん…なんだろ、…真剣な顔して…」
- 912 蒼緒M 「衣路ちゃん…なんだろ、…真剣な顔して…」
- 913 衣路 足音止まつて。
- 914 衣路 「衣路ちゃん…なんだろ、…真剣な顔して…」
- 915 衣路 ■ドアを開けて、むいかの小部屋に入る一人。
- 916 衣路 閉じられるドア。ぞわめきが消えて「一人きり」。
- 917 衣路 「…」
- 918 衣路 「……あのや、蒼緒」
- 919 衣路 「へ、うん」
- 920 衣路 「…ゆうべは、ありがと。吸血させてくれて。…おかげで、その、お腹こりぱこだ、なつたし」(照れつ)
- 921 衣路 「ああ、へ、……うん」(思ふ出して照れつ)
- 922 衣路 「……へ、そ、それでさ、改めて言つておひらひ語つて」
- 923 衣路 「…へ?」
- 924 衣路 「…へ?」
- 925 衣路 「あのや、昨日、雪音に言われたんだ。ヴァンパイアードと花嫁は、命を預けあって、命を与えるからこそ、ふたりだけの特別な絆がある、へ?」
- 926 衣路 「私は、……蒼緒が私の花嫁になつてくれるつて言つてくれた時、本物は、すうと迷つてたんだ。ヴァンパイアードの花嫁になつたら、一生、蒼緒を縛り付けておくことになる。でも、断れなかつた」
- 927 衣路 「……へ。…それって、私じゃ嫌だつたって、いと?」
- 928 衣路 「……へ、ぐつ……?」
- 929 衣路 「私は、……蒼緒が私の花嫁になつてくれるつて言つてくれた時、本物は、すうと迷つてたんだ。ヴァンパイアードの花嫁になつたら、一生、蒼緒を縛り付けておくことになる。でも、断れなかつた」
- 930 衣路 「……へ。…それって、私じゃ嫌だつたって、いと?」
- 931 衣路 「違う。嬉しかったんだ。蒼緒が私の花嫁になるつて言つてくれて。嬉しいから、……断れなかつた。蒼緒に、人間として普通の人生をあげることもできたのに。……できなかつた」

936	蒼緒	「……」
937		頭を下げる衣路。
938		
939		
940	衣路	「だから、いあん。……いも、」
941		
942		衣路、顔を上げる。
943		
944	衣路	「蒼緒、聞いて欲しい。私にはもう普通の人生はあげられないけれど、
945		でも、できる事なら、蒼緒と特別な絆を築きたい、ヴァンパイア
946		じ花嫁として。私は、吸血もおともじできないような半端なヴァン
947		パイアールだけよ。でも、……一生、私が蒼緒を守るから。だから、
948		どうか、蒼緒、……これからも、私の花嫁でいてほしい…」
949	蒼緒	「……（一）」
950		
951		息を飲む蒼緒。
952		
953	蒼緒	「…衣路ちゃんが言いたかったことって、それ？」
954	衣路	「…ああ」
955	蒼緒	「……（一）ばか衣路ちゃん」
956		
957		衣路を抱きしめる蒼緒。
958		
959	衣路	「あ、蒼緒（一）」（照れて驚きつつ）
960	蒼緒	「…わい、怖い顔してるから何かと思つたじゃない」

961	衣路	「ええ、（一）怖かつたか？」
962	蒼緒	「怖かつたよ。…キスなんてしたから、私のことがいやになっちゃったのかなって」
963		
964	衣路	「いい嫌になるわけないだろ！ 蒼緒は…、私の大事な花嫁なんだから…」
965		
966	蒼緒	「…ありがとうございます。衣路ちゃん。でも…（一）？」
967	衣路	「なんか、プロポーズみたいだつたよ？」
968	蒼緒	「えええええええ？ いや…、やつこいつもんじゃ、いや、一生
969	衣路	かけて、守るつもりだけど…（一）」
970		
971	蒼緒	「……。うん。わかってる」
972		
973	蒼緒M	「…わかつてゐよ。私の特別と、衣路ちゃんの特別が、違う（一）な
974		んで」
975		
976	衣路	「…蒼緒？」
977	蒼緒	「…ありがとうございます。衣路ちゃん。私を衣路ちゃんの花嫁にしてくれて」
978	衣路	「蒼緒…」
979		
980		抱きしめ返す衣路。
981		
982	衣路	「うん…。ありがとうございます」
983		
984	蒼緒M	「帝國陸軍特務機攻部隊はウエアウルフを殲滅するために組織された部隊です。」
985		

986 そのためにヴァンプドールの少女が集められました。ヴァンプドー  
987 ルは生まれた時はふつうの女の子です。

988 でも大きくなると、牙などの特徴が現れ、覚醒すると人間の世界で  
989 は生きていけないので、軍隊に集められます。そして、野犬殺し——

990 ストレイ・ドッグ・カーネイジとして闘わされるのです。その兵糧  
991 として集められた少女は花嫁と呼ばれます。ひとりのヴァンプドー  
992 ルにひとりの花嫁が与えられます」

993

994 蒼緒 M

995 「つまり私は兵糧ひょうりょうです。でも——彼女が私を特別と呼んでくれるの  
996 なら、私はきっと、…幸せです。だって私は、衣路ちゃんの花嫁はなよめだ  
997 から」（複雑な蒼緒）

998 蒼緒 M

999 「…きいひ、衣路ちゃんの特別と、私の特別は…違うけれど」

1000

(END)



# 吸血鬼の花嫁

—ヴァンプドールのはなよめ—

*A bride who gets married to vampire*

## DRAMA CD

Saku Takano Presents  
*A bride who gets married to vampire*

〈ドラマCDアフレコ台本〉

2021年11月1日発行

発 行 嵐乃朔/Waterfall

s.takano.wf@gmail.com

[https://twitter.com/takano\\_wf](https://twitter.com/takano_wf)

<http://www.pixiv.net/member.php?id=2675148>

印 刷 所 株式会社栄光

ロゴデザイン 嵐田フトシ様



A bride who gets married to vampire

# 吸血鬼の花嫁

—ヴァンプドールのはなよめ—

*A bride who gets married to vampire*

## DRAMA CD

Saku Takano Presents  
A bride who gets married to vampire

〈ドラマCDアフレコ台本〉

非売品